様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号　19010　学校名　岡豊高等学校　氏名　前中　佳奈

研究の背景

研究対象（学年、クラス等）　2年生　生徒数　39　名

科目名　英語Ⅱ　単位数（授業時数）　4　時間　使用教科書名　Surfing English Course Ⅱ（文英堂）

クラスの様子・特徴

クラスの 3分の2の生徒(26人）が体育系の部活動に所属。元気で活発であるはずが、『授業中、とても静かで、受け身的な雰囲気のクラス』であり、全体の6割以上が英語が嫌いと答えている。音読の声も小さく、反応も少ない。書く作業は、静かにこつこつとやる生徒が多い。

問題の確定

「英語がわからないから、考えようとしない」といった悪循環になっている。自ら取り組み、達成感の味わえる授業作りが必要だ。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
音読の声も小さく元気がない。文法中心の授業は、ほとんどの生徒が壊滅状態。英語嫌いに拍車を掛けている様子。ワークシートの活動は、時間を区切るなど、授業にメリハリをつけることでより活発化した。ウォーミングアップゲームは、日により反応はまちまち。	前半、活動を中心に進めていたところ、もっと英文の説明をしてほしい、わかりやすくしてほしいなどの意見が多く出た。この評価を踏まえ、1学期後半はワークシートの形式を変更。その後の授業について、4段階評価で、AまたはBの評価が8割以上あった。	1学期中間試験、　クラス平均60.3点　。1学期期末試験　クラス平均　65.4点。抜き出された単語を本文中に戻す問題について、中間試験：正答率90%、期末試験：正答率45%。学年の中でも、平均的なクラス。

リサーチ・クエスチョン

英語嫌いも多く、とても静かで受け身的な授業を好む生徒に対し、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせ、『英語は苦手だけれど、授業にしっかり参加できた』と感じることのできる授業を実施し、基礎学力定着へとつなげるにはどのような活動・指導方法が効果的か？

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
授業の始まりの活動を工夫し、クラスの雰囲気作りに努める。またワークシートの活動をよりシンプルに、英語嫌いの生徒でも取り組みやすい形式にし、活動ごとにスタンプを押すなど、目に見える形で評価することで、「自分でやってみよう」という気持ちを引き出せるだろう。	・クラスのムード作りとして、ウォーミングアップゲーム(伝言ゲームやミステリーワード等)を実施した。また、授業の始めに、復習読み及びウォームアップを目的とした、単語等の音読練習を実施した。 ワークシートは取り組みやすい形式とし、活動ごとに時間設定をし、時間内に自分で解いた者には、スタンプを押し、評価した。	ウォーミングアップ(ゲームや音読）→本時の活動という流れに生徒も少しずつ慣れ、音読の声も徐々に大きくなってきた。しかし、この形式はマンネリ化する危険性もあり、生徒のその日の状態で工夫が必要であると感じた。ワークシートについては、取り組みやすい形式にしたことにより、“自分でやろう”という生徒が増えたように思える。アンケートでも、ワークシートについて8～9割の生徒がAまたはBの評価をつけていた。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
個人の活動にとどまらず、その他の活動で達成感の得られる活動を組み込むことで、活動にメリハリができ、授業を楽しむことができるだろう。	新しい課に入る前と終了後に本文全体を読ませ、知らない単語のチェックをさせた。また、「今日はこの単語だけは覚えよう！」という語を数語設定し、本文のCDで聞き取った後、リピート、日本語→英語、英語→日本語等の形式で教師の後についてリズムよく読ませ、ペアワーク、最後に全体で締めくくり、短時間で単語を覚える活動を行った。	知らない単語チェック用紙は、成績に関係がないと知ってか、適当に作業をし提出しているようなものが多数あり、結果を適正に検証できなかった。“Today's Goal”と名づけた単語を覚える活動は、ゲーム感覚で楽しく覚えることができ、“覚えたぞ！”という達成感を味わうことができたようだ。短時間で覚えたことは忘れやすいので、次時に復習をしたが、毎回単語テストを実施したほうがより記憶に残ったかもしれない。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
音読や語句等の書き取りなど、反復学習を実施することで、教科書の英文の理解度が増し、語彙の定着に役立つだろう。	ワークシートの活動をきちんとこなすことで、生徒自身が反復学習できるよう各活動のつながりを工夫した。各パートの新出文法事項を含む英文については、フレーズごとにスラッシュを入れ、日本語訳をつけた文を黒板に板書し、少しずつ語を消しながら何度も音読し、暗記させた。フレーズ読み(英・日）をペアワークで実施し、全体で競争するなど、活動させた。	英文を黒板に板書し、何度も繰り返し音読する方法は予想外に食いつきが良く、授業に活気が出た。しかし時期的なことも関係し、2学期後半、徹底できなかった。またフレーズ読み（和訳付き）の音読練習は、少しずつ活動に負荷をつけ、充実した活動ができていたようだ。授業で用いた同じ形式の用紙で、（　）抜きの暗唱テストを実施した結果、8箇所の空所8点満点で、平均6.9点と定着率が良かった。

研究の成果

クラスの授業中の雰囲気を根本的に改善しようと試みたリサーチ。当初から計画に無理のある研究だとは十分に理解していたが、今回こそは立ち向かおうと思い、強行した。ワークシートの作成を工夫するなどした結果、授業に対する取り組み方が変化し、『自ら取り組む』生徒が増えた。リサーチ・クエスチョンの中の“『英語は苦手だけれど、授業にしっかり参加できた』と感じることのできる授業を実施し、”というところまでは何とかたどり着けたようだ。しかし、最終目標の“基礎学力定着へとつなげる”という点において、まだまだ研究の余地がある。

今後の授業改善の課題

今回、仮説を立て実践してきたこと(特に仮説2と3の実践)は、どれも中途半端に終わってしまったように思われる。良いところまではいけても、最終の詰めが甘く、定着率が低かったなどの反省点がある。本当の意味での達成感のある授業ができていなかった。テスト前に、勉強してすぐに忘れてしまうようなものではなく、生徒個人の基礎学力として語彙や新出文法事項の定着を図ることが今後の課題である。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　088-866-1313　電子メール　#REF!